28　アリジゴク

ーアリにとってはとても恐ろしい所ですー

裕美ちゃん　お手紙ありがとう。昆虫館に行ってきたときの話，楽しく読ませてもらいました。今日は，ぐうぜんに見付けた虫の報告です。

それは，おじさんが山の辺の道を歩いた日のことでした。天理をスタートして南に歩いていくと，木々がぼつぼつ紅葉し，柿畑では収穫が始まっていました。実りの秋，良い天気で，畝傍山や耳成山，遠くには二上山や金剛・葛城の山々が見えました。

長岳寺に着きました。長岳寺は関西花の寺 25 か寺の 1 つで春のサクラ，ツツジ，カキツバタから始まり年中花の絶えないことで有名です。今はスイフヨウがきれいでした。

山門をくぐり本堂にお参りすると，極楽地獄図の展示が行われていました。今から 400 年ほど前の安土桃山時代に狩野山楽が描いた作品です。縦 3.5m，横 11m もある大きなもので，閻魔(えんま)様の厳しい取り調べの様子，火の海地獄や木の葉が鋭い刃物になっている地獄などが描かれています。

子どもの頃，こんな絵を見てすごくこわかったこと，そして，たとえ他人に見とがめられなくても悪いことをしてはいけないと思ったことを思い出しました。

外に出て珍しいものを見付けました。本堂の縁側の下です。乾燥した細かい砂の中に円錐(えんすい)をさかさまにしたようなくぼみがたくさんあるのです。

右の写真のくぼみ，何だと思いますか。これはアリジゴクと呼ばれているもので，アリがここに落ちるとなかなかはいあがれないのです。もがけばもがくほど，サラサラと壁面がくずれて落ちていきます。この底にウスバカゲロウの幼虫がかくれていて落ちてきたアリの体液を吸い取ってしまうのです。

地獄図を見た後に発見したアリジゴク，落ちたアリはかわいそうですが，ウスバカゲロウの幼虫にとっては生きていくためにどうしても必要な食料なのです。不必要な殺生はいけません。でも，生物の「食べる・食べられる」の関係(食物連鎖・しょくもつれんさ)は，いたしかたのない自然の姿なのです。

アリジゴクは，ここだけにいるものではありません。お家の近くの乾燥したところで見付けられると思いますよ。探してみてください。

ではまた，さようなら。

(やまと・平成 20 年 11 月号所載)

スポットの案内

長岳寺は天理市柳本町 506，JR 柳本駅から東へ徒歩 20 分，JR・近鉄天理駅からバス「上長岡」下車，徒歩 5 分です。拝観料は小学生 150 円，中学生 200 円です。

近くにある天理市の無料休息所「トレイル青垣」では，山の辺の道の案内や鳥や草花の紹介，市内で発掘された文化財の展示が行われています。開館は8:30～17:00，年末年始(12月29日～1月3日)は休館，入館は無料です。

理科のワンポイント「動物の食べ物」

アリジゴクがアリの体液を吸って生きているように，動物は何かを食べることによって生きています。植物のように光合成をすることができないのですから止むを得ないことです。私たちもそうです。栄養のかたよりを防ぎ，いろいろな栄養素をまんべんなく摂るために，「好き嫌いなくなんでも食べなさい」と言われています。

でも，好き嫌いが非常にひどい動物もいます。例えば，チョウの幼虫です。チョウの幼虫は種類によって食べるものが決まっています。モンシロチョウはキャベツやダイコン，アブラナなどの葉を食べます。アブラナ科の植物です。モンキチョウはシロツメクサやアカツメグサを食べます。ニンジンやパセリを食べるのはキアゲハです。ともにセリ科の植物です。サンショウやカラタチ，ミカンなどミカン科の植物の葉を食べるのはカラスアゲハ，アゲハ，クロアゲハです。サンショウの葉っぱなんてからいのに，どうしてあんなものを食べるのかと思いますね。まったく「蓼(タデ)食う虫も好き好き」と言われるとおりです。チョウの幼虫ではありませんが葉っぱや茎に苦味があるこの植物を食べる虫もいるのです。

チョウが成虫になると食べ物は花の蜜ということになります。ですからチョウの成虫の口は細い管になっていてこれを使って蜜を吸い取るのです。でも，口とは言っても私たちの口とは似ても似つかない

ものですから，生物学ではこうした食べ物をとる器官のことを「口」と言わずに「口器」，特にチョウのように吸い取るための口を「口吻（こうふん）」と言います。チョウの口吻はふだんはぜんまいのように巻かれていて飛ぶときの邪魔にならないようになっています。

チョウのように花の蜜をえさにしている鳥がいます。これがハチドリで世界で最も小さい鳥です。長いくちばしで蜜を吸うのですが，空中でホバリング（ヘリコプターのように空中に止まっていることです）し，吸い終わったら後ろに飛びます。こんな飛びかたができるのはこの鳥だけだということです。えさが花の蜜であるためにはこうでないと困るのですね。

蜜ではありませんが，セミは樹液を吸って暮らしています。幼虫のときは樹木が根から吸い上げた水分を運ぶ道管から，成虫は葉っぱで作られた養分を運ぶ師管から，その中を流れている液体を吸っているそうです。師管を流れている液体には栄養があるだろうけど，道管の中を流れているのは根から吸い上げた水なのだから，栄養分が含まれていないのではないかと思いますね。でも，あまり動き回らない幼虫はこれで十分，栄養がありすぎると太ってしまう心配があるのです。一方大きい声で鳴き，飛び回る成虫たくさんの養分を含んでいる師管の中の液体でないと駄目なのです。うまくできているんですね。

※　道管と師管のことは「1　高山竹林園」のところに書いています。